

**製品名: Cleaved-ITI-H1 (D672) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08999**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	71kDa

**抗原情報**

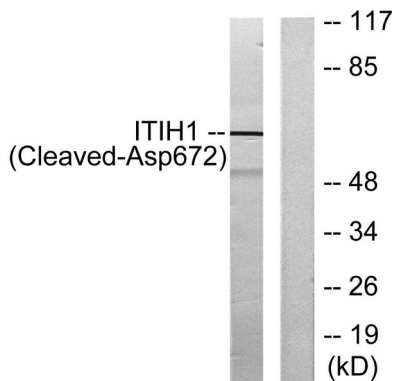
遺伝子名	ITIH1 ITIH1; IGHEP1; Inter-alpha-trypsin inhibitor heavy chain H1; ITI heavy chain H1; ITI-HC1;
別名	Inter-alpha-inhibitor heavy chain 1; Inter-alpha-trypsin inhibitor complex component III; Serum-derived hyaluronan-associated protein; SHAP
遺伝子 ID	3697.0
SwissProt ID	P19827
免疫原	抗血清はヒト ITIH1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 623-672

**背景**

この遺伝子は、インター- $\alpha$ -トリプシンインヒビターファミリーのタンパク質をコードしています。選択的スプライシングにより複数の転写産物バリエーションが生じ、そのうち少なくとも1つはプレプロタンパク質をコードしており、このタンパク質はタンパク質分解によってインター- $\alpha$ -トリプシンインヒビター複合体の重鎖を生成し、肝細胞から血中に分泌されます。この重鎖はヒアルロン酸とも相互作用し、この相互作用は排卵と受精に関与している可能性があり、複数の炎症性疾患との関連が示唆されています。この遺伝子は、3番染色体上の遺伝子クラスターに存在します。[RefSeq 提供、2015年11月]、機能:広範囲の食作用細胞を刺激する可能性のあるペプチドが含まれています。、機能:血清中のヒアルロン酸の運搬体として、またはヒアルロン酸と他のマトリックスタンパク質(組織の細胞表面上のタンパク質を含む)との間の結合タンパク質として作用して、生物学的プロセスを受けている細胞に不可欠なヒアルロン酸の局在、合成、分解を制御します。、質量分析: PubMed:9677337、多型:共通の対立遺伝子が3つあります。 ITIH1\*1は Glu-585/Gln-595、ITIH1\*2は Val-585/Arg-595、ITIH1\*3は Glu-585/Arg-595です。、PTM: 重鎖は、プロペプチド切断後にC末端アスパラギン酸のアルファカルボキシルにエステル化されたコンドロイチン4-硫酸を介してビクニンに結合します。、PTM: S結合型グリカンは、GlcまたはGalの2つのユニットで構成されます。、類似性: ITIHファミリーに属します。、類似性: 1つのVWFAドメインを含みます。、サブユニット: I-alpha-I 血漿プロテアーゼ阻害剤は、1つまたは2つの重鎖(H1、H2、またはH3)と1つの軽鎖であるビクニンから組み立てられます。インターアルファインヒビター (I-アルファ-I) はH1、H2、ビクニンから構成され、インターアルファ様インヒビター (I-アルファ-LI) はH2とビクニンから、プレアルファインヒビター (P-アルファ-I) はH3とビクニンから構成されます。

## 研究分野

## 画像データ



エトポシド 25 $\mu$ M で 24 時間処理した Jurkat 細胞ライセートの ITIH1 (Cleaved-Asp672) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。